

2021年12月好日

東京都知事 小池百合子 様
千代田区長 様 新宿区長 様 港区長 様
文京区長 様 台東区長 様 中央区長 様
墨田区長 様 江東区長 様
文化庁長官 都倉 俊一 様
観光庁長官 和田 浩一 様
文部科学省大臣 末松 信介 様
国土交通省大臣 斎藤 鉄夫 様
農林水産大臣 金子源二郎 様
環境 省大臣 山 口 壮 様
関係者・関係機関のみなさま
(区長名は後日記載)

提 言 書 (概要版)

VISION 2032

近未来の世界遺産をめざし
—江戸城全体整備構想の策定並びに
江戸東京の歴史文化資源を活かした
持続可能な観光まちづくり推進—

2021年12月23日

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス

理事長 小竹 直隆

提 言 書

V I S I O N 2 0 3 2

近未来の世界遺産をめざし
—江戸城全体整備構想の策定並びに
江戸東京の歴史文化資源を活かした
持続可能な観光まちづくり推進—

目 次

はじめに：

第一章：江戸東京の歴史文化資源をどのように評価するか

第二章：内外の環境変化をどのように捉えるか

第三章：世界が憧れる持続可能な観光（城郭）都市東京のイメージ

第四章：乗り越えなければならない壁

第五章：提言の内容

VISION2032・提言書（概要版）

近未来の世界遺産を目指し
—江戸城全体整備構想の策定並びに江戸東京の歴史文化資源を活かした
持続可能な観光まちづくり推進—

世界は今、気候変動（破壊）やパンデミック・コロナ禍の最中にあり地球規模の大変動期を迎えています。また世界の国々は、格差社会にあり社会経済の先行き見通しもままならず模索が続いています。元来、人類は人々の「交流」により文化文明を創造して発展させてきたと云われています。創造の源泉である交流はコロナ禍により閉ざされ人類はかつてない本質的な課題を提示されています。一方、**低成長・成熟化社会の下、超少子化高齢化を迎える日本も明るい兆しは見えず厳しい現状にある**といえるのではないのでしょうか。

日本最大の城郭都市江戸城全容の完成は、1636年江戸城外堀の完成によるといわれています。それから400年を迎える**2036年**を目指し、「**史跡江戸城外堀の保存管理計画**」は、史跡江戸城外堀の史跡整備も視野に入れて千代田区・港区・新宿区の3区により、2008年すでに、策定されています。

東京ビジョン戦略は2030年（2040年）に向けて**日本橋の首都高の地下化を推進、都市部の緑を次々と創出し外濠の水質改善にも取り組み、水辺の豊かさを求めて、かつての江戸が水と緑の美しさが溢れたように世界に誇れる東京を目指そう**としています。

このように、江戸城跡などの周辺を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。

VISION2032・提言書「江戸城全体整備構想の策定並びに江戸東京の歴史文化資源を活かした持続可能な観光まちづくり推進」策定の背景は、2017年旧江戸城及び城下町の歴史文化遺産の文化的価値を活かした観光まちづくりの形成・発展に寄与することを目的に普及・啓発活動を推進して参りました。2021年には、江戸東京歴史文化ルネサンス調査研究委員会による報告書の策定により、これまでの「江戸東京歴史文化ルネサンス5カ年基本計画（2018年）」を再検証し一連の活動の集大成を行ったものです。

2022年度は準備期間とし2032年度迄の10年計画で取り組みを推進します。

※ご参考「2004年 市民団体の創立からこれまでに至る主な活動の歩み」

[\(https://zaidan-edojo.or.jp/aboutus/koremade/\)](https://zaidan-edojo.or.jp/aboutus/koremade/)

本「**提言**」は、広く社会一般に普及・啓発・提言活動を推進すると共に、東京都知事、千代田区長をはじめとする各区長等・文化庁長官、観光庁長官、国土交通大臣、農林水産大臣、環境省大臣等の関係者及び関係機関等に「提言」をさせて戴く所存でございます。この機会を通し、多くの皆様から様々な角度からのご意見ご支援を戴きますよう、よろしくお願い申し上げます。

第一章 江戸東京の歴史文化資源や自然条件等をどのように、評価するか

1. 江戸東京の莫大な歴史文化遺産が潜在し埋蔵され続けている：
2. 東京の多様性・コスモポリタンの文化の源流は江戸に古代に遡る：
3. 東京が誇るべき水域、自然と人間が共生する秘められた水の都である：
4. 東京はハブ（通過）都市になっていないか。滞在は京都、大阪、奈良へ：

文化財が日本一多いのが東京であり、伝統産業においても日本有数の都市である。

都市東京の固有の個性は、世界に類を見ない歴史文化資源や生態系や自然条件にあると考える。しかしながら、特に、特別史跡周辺地域など、文化財（国民の宝）が集積する観光地区としても、必ずしも認知されておらず、十分な発信（見える化）も、なされているとは言い難い。溪谷や川・水辺の四季の美しさを魅せることもしかりである。

第二章 内外の環境変化やトレンドをどのように捉えるか

1. 世界の「首都」は、いま、歴史的文化的、知的創造による熾烈な競争の時代へ：
2. ユネスコと世界観光機関は持続可能な観光の具体的な開発目標づくりの加速へ：
3. 歴史まちづくり法等関連法令の活用：（国の支援を全面に打ち出した事業法）
4. 文化財保護法「大綱」一東京都は文化財の特例地域・文化圏の指定及び支援策を：
5. 観光地域づくり法人 Destination Management Marketing Organizationの設置：
6. DX（Digital Transformation）デジタルトランスフォーメーションの活用：

この間、多くの関係者・機関により法令の見直しが進められ、歴史文化資源を活かした観光まちづくりの環境が整備されてきた。既に80数か所の市町村が「歴史まちづくり」の認定を受け、「地域観光法人」は、239になり、国の様々な支援を受けたまちづくりが進められている。

東京都の歴史まちづくりの申請・認定個所は皆無であり登録DMOも無い。

世界的に加速化されているSDGs文化観光の動向に対しても、世界の首都における熾烈な都市間競争においても、東京は驚くほどに鈍いとの感を禁じ得ない。

いまこそ、都市東京全体を城郭都市として俯瞰する観点から、潜在化する財産、即ち、事業及び運動の再定義を行い、スピード感のある変革を進めることが肝要と考える。

第三章 世界が憧れる持続可能な観光・城郭都市東京のイメージ(将来像)

—江戸東京の固有の個性—歴史文化資源や自然を活かす—
一人に優しい豊穡な世界—再び、訪れたいまち、住み続けられるまちづくり—

1. 江戸から引き継がれた歴史文化資源もエコロジカルな風景もある。国の内外から訪れる多くの人々に深い感動をもたらし、首都としての品格ある美しさが創造されている。地域に住み、働く人々や市民や産学官民の多彩なコミュニティや団体の弛まぬ活動があり、其々の役割・使命によりラウンドテーブルを囲み地域の総合力の向上に貢献している。
2. 江戸東京全体の絵図やガイドブック・観光拠点化、自転車ポート設置、伝統工芸や土産品の販売個所、ガイドが育成され、ウォーカブル（歩き回る）や自転車、車、水上交通、による周遊ルート、文化行事等の多様なツアープログラムが用意されている。上質なツアーに参加する滞在型の観光客・リピーターも多く定着しているとみられる。歴史文化資源等のプラットフォームでは、GISなどの様々なデジタル技術を活用することにより、いつでもどこでも誰でもが自由にアクセスし、情報を入手している。
3. 東京の文化財の特例地域、文化圏として指定され支援を受け、一元化された歴史文化資源はエリアで分断されることなく、「纏まりと繋がり」が見える。同時に江戸東京の全体像と共に其々の地域の個性は磨かれてより魅力的になっている。
4. 江戸城・桜田門などの五つの城門から放射線上の延びる道は、かつての藩へと繋がり、双方向に通い合うにより、地方にも新たな価値が創造されている。
5. 歴史まちづくりの認定都市として、都市東京全体の総合力の向上に向けて、持続可能な観光地域法人（登録DMO）により、地域にメリットのあるフレームとマーケティング・マネジメントが行われている。
6. これらの活動を通して江戸城全体整備構想も策定され・計画化が進み保存・活用・修復や建築の取組みも始まっている。東京は世界遺産を目指しつつ次世代へ近未来へと継承し文化芸術の振興並びに観光まちづくりの形成・発展に寄与する取組を推進している。

しかしながら、理想を語るは易し行うは難しである。江戸東京の歴史文化資源等を活用した観光まちづくりの理想を現実のものとするためには、現状において、どのような課題や「壁」があるか、そして、「壁」を乗り越えられるか、否かにかかっている。

第四章 乗り越えなければならない「壁」

1. 阻害要因・自治体や行政等の縦割りのしくみや文化：

歴史文化資源野活用やまちづくりを進めて行くためには、例えば、事業開発と文化財保存という自治体や行政の縦割りのしくみやそれらに伴う文化・風土が、むしろ阻害要因となっている。

それらを乗り越えていくことが極めて肝要である。縦ワリ組織の問題は行政に限らず、民間の私達にも同様にありうる日常的な現象にみることができる。

2. 歴史文化資源や観光まちづくりの仕組みの活用、規制や税制の改革：

前述の通り、関係者のご尽力により歴史文化資源の活用や観光まちづくりの環境整備は大きく前進してきたといえる。東京においては、それらの活用は必ずしも十分とはいえない。

一方、固定資産税や相続税問題。伝統工芸は生業として成り立たないといわれている。職人の高齢化や継承、賃金問題等）に関するしくみや保護策、規制や税制の改革は歴史文化資源の保存活用にとって、極めて重要である。

第五章 提 言 内 容

これまでの活動、即ち、旧江戸城及びその城下町の歴史的文化遺産の価値を活かしたまちづくりについて調査研究し、その成果や今日的意義を普及し啓発する活動を推進してきた。それらを踏まえて我が国の文化・芸術の振興に並びに歴史文化資源を活かした持続可能な観光まちづくりの形成に寄与することを目的とし「提言」を行うものである。

1. 江戸東京の歴史文化まちづくり中長期計画の策定：

歴史まち法に基づく中長期計画をすみやかに策定するよう、東京都・千代田区等関連する行政機関及び民間などに対し「提言」を行う。自治体の取組みに関連する東京都は「大綱」に基づき、江戸城史跡という地域・文化圏（少なくとも 8 区）にかかわる文化財の保存・活用計画について「特化した取り組み方針及び支援策」を明示し、それにより、各区が取組みやすいようにすることを提言する。一方、関連する当会の課題である**江戸城全体整備構想の策定**は、人・モノ・資金等の体制が整い次第、策定活動を開始する。

2. SDGs 観光地域づくり法人の登録DMOを目指す組織の設置：

江戸東京歴史文化資源に光を当て、それを軸に多様な関係者による観光地の形成、即ち登録DMOを目指すことを提言する。

地域にメリットのあるフレームと地域全体の総合力向上に向け調整やプエリア・マネジメントを行うための、観光地域づくり法人の設置を提言する。

3. プラットフォーム・江戸東京歴史文化資源等を活かした観光まちづくり」参加：

当会は、600の歴史文化資源（既にHPに公開中）をベースに順次、HPに掲載を開始している。歴史文化資源等の多彩な情報収集・提示を行う活動を進めつつ、市民・産学官民の多様な主体の参加を募りつつ、GIS等のデジタル技術の活用による「DX・プラットフォームのしくみづくりの研究を進める。

4. 阻害要因・縦割り組織の壁、規制や税制の改革

前述の第2章の取り組み課題は、総合力の向上を目指すことにある。自治体及び行政、あらゆる機関等に存在する縦ワリ組織の壁は乗り越え、例えば横断組織野活用等により取組みを進めるよう提言する。固定資産税や相続税問題、職人の高齢化や継承、賃金問題等）に関するしくみや保護策、規制や税制の改革

以上、関係する行政や関係機関に対し1・2・3・4に対する提言活動を進めると同時に当会は主体的に関係者と話し合う機会を設定する等取組みを進める。 以上

〒113-0033

千代田区三番町 1 - 1 6

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス

事務局 zaidanedojo@gmail.com

H P : <https://zaidan-edojo.or.jp/>